

授業の玉手箱

ニュアンスの活用

中垣 芳隆

いずれの学校にかかわらず、日々授業で接する学生の中には短期間で成績を急速に伸ばす例に出会うことがままあります。本学でもそのような学生達と話をすると、将来の仕事に英語が必要であるからとか短期大学から4年制大学に編入学して将来は高校の英語の先生になりたいからとか、明確な目的がモチベーションとなっていることに改めて気づかされます。

ひとたび目的が明確になれば、今彼女たちを取り巻く状況の中で、英語の話し手を見つけるのはそう困難ではないし、ラジオでもテレビでも英語の時間があり…と英語の学習は他の外国語の学習よりはるかに便利という条件を上手に活用しています。

ある学生は、残念ながら既に放送終了となりましたが「英語でシャベラナイト」で英語表現の微妙なニュアンスに触れたのが記憶に残ると語っています。

ニュアンスと言えば、実際のコミュニケーションの場面で用いられ、日常会話のレベルでは、それほど複雑な表現が用いられているわけではありません。このことを利用して、ある場面についての不自然ではない状況を設定した上で、身近なふたつの表現を与え、どちらのほうが適切かと問うことを通して、意味の違いにアプローチすることは、文法事項や語句についての生徒の知的好奇心を高め、統語論や意味論の観点からも、英語を深く理解するうえでの重要な手立ての一つになると思われます。

次に、若干の例を挙げておきます。なお()内はご参考までの記述です。

1. 昨今の景気の悪さに直撃されAさんの会社では仕事が少なく、何もすることがなく手持ちぶさたの日々を送っている。

Q: Aさんの今の状況を表すとすれば?

- ①: There's nothing to do.
- ②: There's nothing to be done.

(①は退屈することがない。②はなすすべがない)

2. ボーナスをもらったAさん、欲しいと思っていた中古車を買って、自分の好きな色に塗り直した。

Q: このことを表現するとすると?

- ① He painted a used car. .
- ② He painted a car used.

(①は中古車、②は使用中の車)

3. フーテンの寅さんは旅行ではなく「あてもなく」全国各地を渡り歩いている。

Q: では寅さんの旅を表現するとすれば?

- ① He is traveling.
- ② He is touring.

(①は「あてもなく、あちこち回る旅」、②は「名所旧跡を回る旅行」)

4. ゴルフ好きのGさん。暇さえあれば人前でも素振りの練習に熱中している。

Q: このGさんの行為を表現するとすれば?

- ① He pretends to be a golfer.
- ② He pretends he is a golfer.

(①不定詞を従えたと行動、②の文を従えると心的状態)

5. 友達の家遊びに行き、ついつい長居をしてしまったAくん達。そろそろ帰らねばとA君が時計を見ながら言う言葉は?

- ① It's time we went.
- ② It's time for us to go.

(いずれもOK。①はもうその時間は少し過ぎている。②はちょうどその時間になった。)

参考文献: 田中実「英語のニュアンスおもしろ講座」(朝日イブニングニュース社)

書籍紹介

『英語リーディングの科学:「読めたつもり」の謎を解く』

卯城祐司 編著 (2009) 研究社 2,200円

言うまでもなく、「読む力」は重要である。折しも各国の高校1年生(15歳)が参加する学力到達度調査(PISA)において、日本の「読解力」の国別順位が昨年度改善したニュースが伝えられている。それでは、日本人が「英語で読む」とはどういうことか。非母語の英語で読むとなると、読めたつもりでも実は読んでいないことが往々にしてあるのではないか。本書は「読めたつもり」をなくすことを目的に、英語で「深く」理解するメカニズムを解き明かし、どのようなリーディング指導をすれば効果的かを具体的に提案してくれる良書である。

本書は、リーディングとは何か、語彙知識、構造的理解や背景知識とはどのような関連があるのか、リーディングテストでは何を測ることができるのか、といった我々の問題意識に応えるために、理論と実践の両面から解説している。また、音読や「再読」などのアクティビティがどのように読解スキルを育むのかについての説明もあり、すぐにでも授業で実践してみたい気持ちになる。

日々教壇に立つ教師には「教師としての直感」があるが、経験に培われたそれらの直感をしばしば理論から検証してみることは貴重な機会になろう。学習者のリーディング力を育成するためには、学習者の読みのプロセスを理解すること。そうでなければ、そのつまづきを把握した指導を行うことができないとする本書は、学習者が「英文をどのように読むのだろうか」「どのようなところで読み間違えのだろうか」という視点の重要性を再認識させてくれる。

本書は、最先端の研究成果に基づいて新進気鋭の研究者たちによって執筆されているが、予備知識がなくても読める英語リーディング理論入門書である。「故郷の母親にもわかるように」また「本当におもしろいと思うことを書こう」と申し合わせた執筆者たちの筆致は科学的でかつ柔らかな。(東條 加寿子)



編集後記・第7回勉強会(案内)

このnewsletterも第4号の発行となった。2010年4月教職課程開設以来、教職志望の学生に教師の仕事に対する使命感と豊かな人間性の育成に努めてきた。また、学校現場の先生と共に学び、実践的な教科内容展開を研究開発することをめざして、講習や勉強会を実施してきた。そうしたニュースを届けるべく、これからも年4回のペースで、皆様の役に立つ編集を心がけたい。今後ともよろしく願います。(ひ)

第7回勉強会予定

平成23年2月12日(土)

2010年11月末、ブルー・バンクロフト基金主催の米国大学視察ツアーに参加し、Harvard, Yale, Wesleyan (University), Williams, Amherst, Smith (College)での施設・授業見学をされた、清水谷高校の富永先生に視察内容の報告をお願いしております。



大阪女学院大学・大阪女学院短期大学
教員養成センター Teacher-training Center

540-0004 大阪市中央区玉造2丁目26番54号

Tel: 06-6761-9371 Fax: 06-6761-9373

Homepage: <http://www.wilmina.ac.jp/ojc/edu/ttc>

e-mail: ttc@wilmina.ac.jp